

地域の人々との交流 ―生活の歴史を発掘―

館長 横川公子



地域のインタビューイのなかには、もうすでに14年目の付き合いになる方々もある。互いに白髪が増え、平均年齢は優に80歳を超えるが、まずは健康を祝しあって、その後の話に花が咲いた。

毎日の普通の暮らしは、かけがえのないものである。予期せぬ災害により、そのかけがえのない価値に気付くことはあっても、歴史として記述されることは少ない。

サロンは、生活財としての雑多なモノを手掛かりに、モノをめぐる様々な記憶や経験を語る場である。インタビューアの若い学生を相手に、自分のことを語るのは楽しい。話は次々に展開して、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまう。

当ミュージアムでは予め、参加学生に、インタビューアとしての研修を受けてもらっている。こちら、高齢者と話ができて、記録し全体を見渡す知的作業は楽しいものだ。はじめはおずおずとしているが、帰るころには、次の機会には是非参加したいとなる。―ミュージアムサロンの一コマである。

地域の人々との交流の場として、ミュージアムサロンを立ち

上げたのは、ずいぶん前のことで、2012年の秋である。当館に寄贈された中田家資料の調査（現在17808件を確認）を拠り所とする科学研究費への採択がきっかけであった。中田家という一軒の家の生活用品の集積を、かけがえのない生活の歴史的現在として分析することが目的であった。当時筆者は、生活環境学科の教員として、生活美学や生活文化史、服飾史、家庭生活論を担当する傍ら、旧資料館（現総合ミュージアムの前身）の研究員や運営委員も兼務していた。中田家資料の調査研究は、研究対象であると同時に、学部や大学院教育の主要な研究課題探求の機会ともなっていた。当館の展示企画として「モノの棲み家、ヒトの棲み家―中田静さんの「自宅」より―」「粗品？粗品！―時代の空気感を映す―」「贈答品の中の食品―中田家コレクションの語るもの―」「ZU Hause 自宅と承認」に活用されたことも付けくわえておきたい。

旧生活美学研究所の統合と、社会連携推進センターからの支援により、サロンがより深く育っていくよう期待している。

1階ロビー

2025年常設展示コーナー

秋季企画

「秋の風物詩展」

～12月19日（金）まで

秋には伝統行事が盛り沢山あり、今回の常設展示コーナーでは、秋の風物詩をテーマに選択した資料を時系列に沿って展示しています。

十五夜（旧暦8月15日）や十三夜（旧暦9月13日）の「お月見」（観月）にちなみ、1は満月を背にして雁が飛翔する姿の帯、2や5はお月見の時に供える秋草を文様にした裂、3は「重陽の節句」（9月9日）に鑑賞する菊花が刺繍された帯揚げ、4は「秋分の日」（9月23日）前後の秋彼岸の頃に咲く「彼岸花」を撮

影したガラス乾板、6は「七五三」（11月25日）で女兒が身に着ける晴着一式など、秋を彷彿とさせる多彩な資料が見られます。

今回の展示キャプション作成および陳列作業は、本学「博物館学芸員課程」の実習生達がミュージアム職員とともに行いました。すべての展示キャプションは実習生一人一人が書いたものです。博物館実習の学びの成果を是非ご覧ください。（平）



展示風景

2025 年度秋季展

加齢の美学

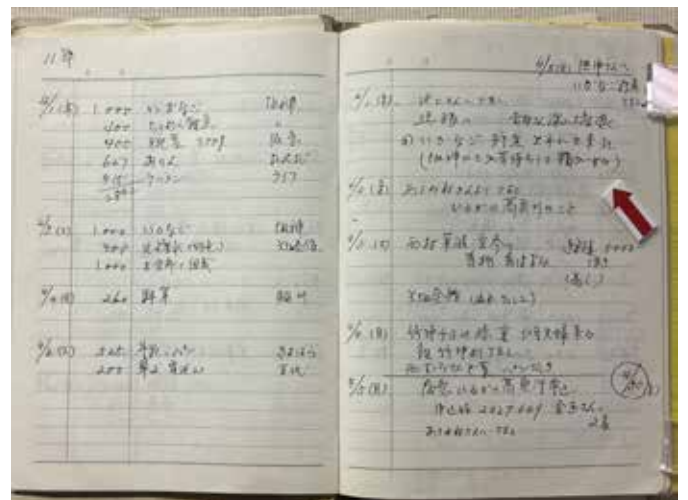
ライフログ
—大阪町家における静さんの暮らしの記録—
開催中！（12月3日まで）

附属総合ミュージアムでは現在、秋季展「加齢の美学—大阪町家における静さんの暮らしの記録—」を開催しています。

本展覧会では、当館に所蔵されている「中田家資料」を対象としています。中田家資料は、中田静さん（1920～2009）の生活財ほぼ一式から構成されているもので、現時点で資料数は17,808点が確認されています。今回の展示では、この中田家資料活用の一環であるとともに、静さんが64歳から86歳までの24年間にわたり、日々の暮らしのなかでの様々な記録を記した17冊の「暮らしの記録」を分析し、実際のモノとの関係性を探っています。

静さんが残した「暮らしの記録」からは、生活のあらゆる側面をみることができます。百貨店や即売会などで購入した洋服、自分の食事だけでなく周囲の人とのコミュニケーションツールのひとつでもあった料理、慶弔のやりとり、おもてなしの様子、和裁の技術を用いて周囲の人の着物の仕立てをおこなっていた交友録、親師範の補助的立場にある准国会頭に昇りつめる腕前でもあった華道に関する若き日のノート、周囲の人達との旅行やお出かけの様子、そして大阪・美章園の自宅周辺の行動マップ…今回の展覧会で取り上げたのはこれらの側面ですが、24年間にわたる暮らしの記録から読み取ることのできる静さんの「加齢の美学」にはまだまだたくさんの切り口があり、今後の研究のタネを孕んでいます。

本展覧会は、初期演習をはじめとする本学の学生・教職員、一般の来館者だけでなく、「ある1人の生活記録」を取り上げた展覧会として様々な博物館関係者にも注目され、来館していただいています。静さんの暮らしの記録をとおして、1人の女性の生き方を見つめ、背景にある時代に思いを馳せ、それぞれの「加齢の美学」を考えるきっかけになれば幸いです。（並木）



写真（左） 展示風景 （右） 静さんの「暮らしの記録」部分

さがしてみよう！

武庫川ヒストリー vol.5

くわしくなろう！

Museum News no.13 に掲載した「武庫川ヒストリー vol.4」では、「復興計画 兵庫県 私立武庫川高等女学校」をご紹介しました。この資料は昭和 21 年（1946）に発行されたもので、太平洋戦争からの復興に関する資料です。昭和 14 年（1939）に創設された武庫川高等女学校は、戦災により校舎の大半を焼失しましたが、この資料には「中等学校の生徒数 855 人」と記載されており、戦後まもなく、多くの学生が集まっていたことがわかります。また「着工年月日及年次計画」の欄には、「昭和 21.4.1 着工より 8 ヶ月」とあります。戦争による大きな被害を受けながらも、一刻も早く女子教育を実施するべく立ち上がった当時の学院の想いが感じられます。



「復興計画 兵庫県
私立武庫川高等女学校（白）」
（当館所蔵）

今回ご紹介する資料は、ある写真資料です。在校生がきっちりと整列しているところの 2 階部分で、屏風の前に座る 2 人の人物が写っています。さて、この方々は一体どなたでしょうか？ヒントは、整列している女学生たちの緊張した面持ちでしょうか…

附属総合ミュージアムでは、学院のこれまでのあゆみに関する様々な資料を収集し、保存しています。学部学科や研究室などにある何気ない資料も、学院にとって重要な資料です。ぜひ、情報をお寄せください。



「モノクロパネル写真」（当館所蔵）

今後の予定

どのイベントも参加費無料です。ぜひお気軽にご参加ください！
お申し込み方法など、詳細はミュージアムの HP をご確認ください。

● 展覧会

・ 12 月 16 日（火）～ 19 日（金） @5 階ギャラリー

2025 年度博物館実習 A 館蔵資料展「モノから覗く『モノ』がたり」

→ 本学で学芸員資格取得を目指す博物館実習生による企画展です。

● 講演会・イベント

・ 12 月 1 日（月） 13:05 ～ @マルチメディア館 1 階マルチメディアホール

学芸員課程関連講演会「わたしたちの博物館Ⅱ 学芸員の仕事の多様性」（講師：追手門学院大学教授 瀧端真理子氏）

・ 1 月 20 日（火） 時間・場所未定（HP や info@Muse で随時情報公開いたします）

学芸員課程関連講演会「わたしたちの博物館Ⅲ 伝承手芸 × 博物館」（講師：日本玩具博物館学芸員 尾崎 織女氏）

研究交流会を開催しました



10月25日(土)、附属総合ミュージアムの研究員・共同研究員による研究交流会を開催しました。当館では年に2回研究交流会を開催し、収蔵庫の見学や研究員・共同研究員による研究発表、ディスカッションによる活発な交流などを実施しています。今回は、7名(当日1名欠席)の研究員・共同研究員による発表があり、その後の茶話会では、各研究発表の内容に基づいて意見交換や新たな研究のタネ探しがおこなわれました。

当館には、31名の研究員・共同研究員がおり、ミュージアムの資料を活用しながら様々な研究をおこなったり、ミュージアムの活動に関わったりしています。そして研究交流会をとおしてそれぞれの研究テーマを持ち寄って、共同研究を模索したり、新たなテーマを見つけたりしています。この日の発表も研究テーマは多岐にわたり、発表のたびに活発な意見交換がおこなわれ、また発表後の茶話会でも様々な研究交流が生まれていました。今後も当館の研究活動の一環として研究交流会を開催しますので、ぜひ学内外の皆様のご参加をお待ちしております。



プログラム

日時：令和7年10月25日(土) 13:00～(15:40ごろ終了予定/その後、茶話会)

企画内容：附属総合ミュージアム研究員・共同研究員による研究報告会、茶話会(自由解散)

会場：学術研究交流館(IR館)IR-101

参加者：附属総合ミュージアム研究員および共同研究員、希望者

タイムスケジュール

12:30～ IR-101 集合

13:00～13:10 ご挨拶

研究報告

13:15～13:30 中田静さんの衣服購入記録にみる衣生活(仮)
池田仁美(研究員/本学生活環境学科講師)

13:35～13:50 近代着物の保存に関する考察(仮)
宇野朋子(研究員/本学建築学科准教授)

13:55～14:10 最近の研究活動の報告と協力をお願い
鎌田誠史(研究員/本学生活環境学科教授)

14:15～14:30 鳴尾の水資源-利水の連鎖(仮)
黒田智子(共同研究員/本学生活環境学科名誉教授)

14:35～14:50 北朝地域における香炉を頂上で捧げるヤクシャ像の類型研究
平法子(共同研究員/当館学芸員)

14:55～15:10 当館におけるデジタルアーカイブ事業の実践と課題について
並木晴香(研究員/当館助教(臨床)、学芸員)

15:25～15:40 シカゴ万博に日本が出品した裁縫教育資料(仮)
樋口温子(共同研究員/当館学芸員)

15:45～ 茶話会(自由解散)

